揖斐農林事務所の普及活動状況　令和６年１月 24 日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■担い手　揖斐地域の農業を考える会の開催

１月 23 日、揖斐地区指導農業士会では、意見交換会を揖斐総合庁舎にて開催し、担い手リーダー、新規就農者、関係機関 28 名が参加した。

意見交換会は２部構成で、第１部は経営品目別で３グループに分かれ、第２部は町別で３グループに分かれ、各自の経営の悩みや課題、行政への要望などを話し合った。担い手リーダーからは「様々な人の声を聴くことができて良かった」、新規就農者からは「いろいろな相談ができよかった」など有意義な意見交換会となった。農業普及課は準備から運営までの活動支援を行った。今後は、今回の意見を普及活動につなげていく。

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■茶　飛騨美濃特産名人認定

１月15日、岐阜県庁において飛騨美濃特産名人認定式が開催され、池田町の河村成敏氏（美濃西部製茶組合長）が新たに認定された。

飛騨美濃特産名人とは、恵まれた風土を生かして全国に誇れる銘柄産地・産品づくりの推進を地域で支えている優れた生産者に対し、岐阜県知事が認定するものである。現在130名が認定されており、揖斐地区では花き、いちご、柿２名に次ぎ５人目の認定となった。

農業普及課では、河村成敏名人とともに、栽培管理による銘柄産地の維持と、各種イベントでの茶摘み体験等による茶文化の伝承に向けた支援を継続していく。

【河村成敏氏と県農政部長】

■かき　かき講演会の開催

揖斐地域果樹産地協議会は、Ｒ４年からＲ５年にみどりの食料システム戦略緊急対策交付金（グリーンな栽培体系への転換サポート事業）に取り組み、環境に配慮した持続可能なかき生産に取り組んでいる。

１月 18 日、大野町町民会館にて大野町かき振興会員を対象に、長く柿の研究に携わってきた元大学教授を講師に招き講演会が開催され、会員 98 名が出席した。温暖化を意識し、環境に配慮した柿生産技術、かき主要品種や大野町で産地化に向けて進めている「麗玉」についての講演で、これからの柿生産について理解を深めた。

農業普及課は、講演会の企画等活動支援の他、講演に先立ち事業の取り組みについて情報提供し、普及活動状況をＰＲした。

【講演会の様子】

■水稲　５年度栽培を振り返り６年度栽培に向けて

１月 24 日、ＪＡいび川担い手サポートセンターで揖斐地域の水稲担い手農家を対象とした飼料用米研修会が開催された。農業普及課から、今年度の水稲栽培の課題や飼料用米の実証結果、白未熟粒やカメムシの発生要因や被害対応策について説明した。今後も収量、品質の向上に向け、地域の栽培上の課題に対応できるよう情報提供を行っていく。

【研修会の様子】

■茶　ＡＳＩＡＧＡＰ内部監査

１月９日、（農）桂茶生産組合が取り組むＡＳＩＡＧＡＰの規定（管理点と適合基準）に基づき、内部監査員有資格者６名による目合わせが行われた。

当日は１農場を対象に、内部監査員及び内部監査員補佐役により 135 点のチェック項目について監査し、是正事項及び是正期間を協議のうえ決定した。

同組合では１月中に、19 登録農場の内部監査実施と是正を完了する予定であり、農業普及課では内部監査で指摘された是正事項への対応等を継続して支援する。

【農場における内部監査の様子】

■かき　ぎふ清流ＧＡＰを受評

１月 15、16、17、19 日に大野町かき振興会員とＪＡいび川が事務局を務める大野町かき振興会がぎふ清流ＧＡＰ評価を受評した。

大野町かき振興会では、新選果機導入を契機に会員にＧＡＰの啓蒙を進め、Ｒ４に技術部会員３名が受評し、今年度も３名が受評した。振興会では、今後も順次ＧＡＰの取り組み、評価を進めていく計画である。

農業普及課では、柿生産者、ＪＡに対して模擬審査等実施し、改善点等受評に向け助言を行ってきており、今後も引き続きＧＡＰの取り組みを支援していく。

【農場評価の様子】

■いちご　岐阜県いちご共進会地方審査を実施

岐阜県園芸特産振興会いちご部会では、優良生産者の表彰により県内生産者の栽培技術改善、品質向上、経営の合理化を図ることを目的に、いちご共進会を毎年開催している。

揖斐管内では、地方審査が１月22日に行われ、各組合から推薦された７戸の生産者ほ場を、揖斐農林事務所長を審査員長として、県及びＪＡからなる地方審査員が、生育状況や管理技術などの項目について審査を行った。

今後、県審査、実物審査や出荷・販売審査を経て、６月頃に最終的な審査結果が発表される。農業普及課では、優良生産者の技術が地域に波及し個々の経営発展や産地振興につながるよう関係機関と連携しながら支援を行っていく。

【ほ場審査の様子】

地域資源を活かした農村づくり

■徳山なんば　生産販売検討会

１月 22 日に道の駅ふじはしで、徳山なんば振興協議会の生産販売検討会が行われ、今年度の生育状況と出荷実績を基に次年度の生産計画について協議した。

今年度は苗生産が遅れ、さらに台風７号の影響により出荷量が半減したこともあり、農業普及課から苗づくりの体制について、道の駅から加工品の販売状況について説明がされ、次年度の売上向上に向けた取り組みについて意見を交わした。

道の駅では国道 417 号（クラウンロード）開通後の客数が増加しており、この契機を逃さず会員が一丸となって売上の増加を目指していく。

【検討会の様子】